第 103 回 全国高校野球 兵庫大会

明石清水ー宝塚西　十回表、明石清水・南が中前に勝ち越しの２点適時打を放つ＝明石

明石清水 5点差逆転

第103回 全国高校野球選手権 兵庫大会 主催／朝日新聞社・県高野連

第10日

兵庫大会は16日、7球場で2、3回戦計14試合があった。春の県大会を制した神港学園は初戦で姫路飾西に快勝した。第1シード校の加古川西は須磨学園に敗れた。

17日は、7球場で3回戦18試合が予定されている。

◇明石トーカロ
▽2回戦

明石清水	0	0	0	0	2	0	0	3	2	7
宝塚西	2	1	2	0	0	0	0	0	0	5

（延長10回）

【明】須藤一南【宝】西尾、土橋、芳山一上田　三上田、福浦、平田（宝）

明石清水 南海斗君

緊張で足が震えていた。十回表、前の打者が申告敬遠で1死満塁となった場面で、明石清水の南海斗君（2年）が打席に入った。

10回 緊張の殊勲打

中軸だが、ここまで4打数ノーヒット。三回にも、2死満塁で打順が回ってきたが、投ゴロだった。

「一球に食らいつくのが、自分たちの野球」という。内角高めに浮いた直球を見逃さなかった。はじき返すと二遊間を抜け、勝ち越しの2点適時打に。一塁上で、ベンチの仲間に向かって小さくガッツポーズをした。

三回まで立て続けに失点し、5点を追う苦しい展開だった。五回に2点をかえしたが、追加点がないまま九回。走者一、三塁ながら2死まで追い込まれた。

ただ、そこから連打でたたみかけ、相手投手の暴投の隙を突いて三塁走者が本塁に滑り込み、土壇場で同点に追いついた。

殊勲の一打を放った南君は、「全然打ててなかったので、先輩につなごうという気持ちで最後の打席に入りました。本当にまだ信じられないです」と声を弾ませた。

（井岡諒）

朝日新聞

2021 年 7 月 17 日（土）

強豪に迫った 誇りの先制弾

明石清水・藤本陽大君

八回表、打席に立つ明石清水・藤本陽大君＝神戸

翼スタンドへ。「変化球は捨てて、ストレートだけをねらっていた」。振り抜いたのは、内角高めの直球。貴重な先取点となる本塁打だった。

実感がわいてきたのは、ベンチに戻ってから。仲間が「ナイスバッティング！」と声をかけてくれ、はじめて「打ったんやな」と感じた。「流れは来たのかな」。そう思った。

ロースコアの接戦に持ち込むのが扶川雅俊監督のゲームプランだった。「どうやって点を取るかなと思っていたところに、藤本がホームランを打ってくれた」

ただ相手は、今春の県大会の優勝校。三回裏に連続長短打で1点をかえされ同点となると、六回裏に適時三塁打で勝ち越された。

強豪校相手に、ピンチでもお互い声を掛け合い、気持ちを切らさなかった。「とても悔しい」と藤本君。でも「やりきった」。扶川監督も「五分の戦いができた。誇りにしてほしい。私も誇りに思う」と振り返った。

（大下美倫）

朝日新聞

2021 年 7 月 19 日（月）

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。承諾番号「21-2780」。